
寒空と燃えさし

土田かこつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寒空と燃えさし

【Nコード】

N63440

【作者名】

土田かこつ

【あらすじ】

「深刻ぶるには夜は危険だ。思わぬところで深みにはまる」
いつもの帰り道。

二人で歩くときはくだらないことしかしゃべらないと決めていた。
…はずなのに。

あつかい切れない感情に途方にくれる女の子とつかみきれない友人の、交錯しそうで交わらない、そんなやりとり。

黒い空に月が透けていた。

夜中というには少し早い、中途半端なただの夜。

息は白くならないけれど、うすいジャケットではもう寒い。河原をわたる風に身震いする。

「寒がり」

となりを歩く友人が笑う。奴はといえば上着すら着ていない。

「暑がり」

憎まれ口をたたいたが、あまり効果はなさそうだった。

学校帰りはくだらないことしかしゃべらないと決めている。二人で歩く道のりは短い。それに、深刻ぶるには夜は危険だ。思わぬところで深みにはまる。

それでも時折無意識にしくじる。

「最近はどうなのさ、彼氏は」

からかいまじりの問いかけに、彼氏と呼ぶべき人のことを考える。好きなつもりではあるけれど、最近ふたりで笑えない。半月前にデートをしたときしばらく会うのはやめようと言われていた。

「よくない」

「別れた？」

「ずばり聞かれて苦笑する。」

「今は少し距離おいて、冬休みあけたら決めようってさ。」

「ふうん」

いかにも気のない声に私は少し奴をにらんだ。

（自分で聞いたくせに）

歩みを止めずに煙草をくわえて小さな赤い火をうつす。

「最悪の選択だね」

私は奴を見上げた。

「無駄な情がふえるだけ。余計に何も決められなくなる」
返事があるのも意外なら言葉までもが予想外だ。これまで何人かに話したが、それがいいよとしか言われたことがない。

だが。確かに距離をおいたとしても病気は進行するだろう。熱を出してた期間は長い。それぐらいには馴染んでる。

奴の言葉は酷く的確だった。

あるいはこいつも知っているのだろうか。ずるずると尾をひく痛み。病みあがり、あがりきらない後遺症。すばらしくわずらわしい・・・

「それ、経験者は語るってやつ？」

一瞬だけ顔をしかめてごまかすように煙草を踏みつけたから、私は声をたてて笑ってやった。

河原をそれると駅がみえる。私は歩調をゆるめたが、奴の速さは変わらない。あきらめて追うと奴は二本目を唇にはさんでいた。

煙たいものは嫌いなはずなのに、夜の火は綺麗だと思う。だまされた気分で観察する。

「何見てんの」

「げじげじ眉毛」

奴の呆れ顔。私の笑い声。

学校帰りはくだらないことしか考えたくない。

だが、あやうい灯りに照らされた顔は、あっさり期待を裏切った。

果たして。

斜にかまえた首の角度は、いつさだまったのだろう。

煙を吐く灰の息は、なぜこんなにもか細いのだろう。

時折見せる情のない顔は、誰によって作られたのだろう。

経験者は語る。その経験を私は知らない。

私は、奴に何か刻めるだろうか。
たとえば眉間のしわ一本でも？

「じゃ」

かすれた声で我にかえる。いつのまにか周囲は明るく、券売機前に着いていた。

「また」

返事を待たずに背をむけて歩き出す。

うん、じゃあ。口の中でつぶやいてため息をついた。

いつだって、奴は私の振る手を見ない。

そっけない別れ方を少しだけ憎みながら、私は定期を改札に滑らせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6344o/>

寒空と燃えさし

2010年11月9日04時42分発行